

雑誌広告デジタル送稿

JMPAカラー準拠 PDF 制作ガイド

2025/9/1 改訂

2025年版

雑誌広告デジタル送稿推進協議会
日本雑誌協会 日本雑誌広告協会 日本広告業協会

CONTENTS

01 JMPA カラー準拠 PDF 制作ルール

制作環境	3
PS Photoshop	4
AI Illustrator	5～9
ID InDesign	10～13

02 JMPA カラー準拠 PDF 作成方法

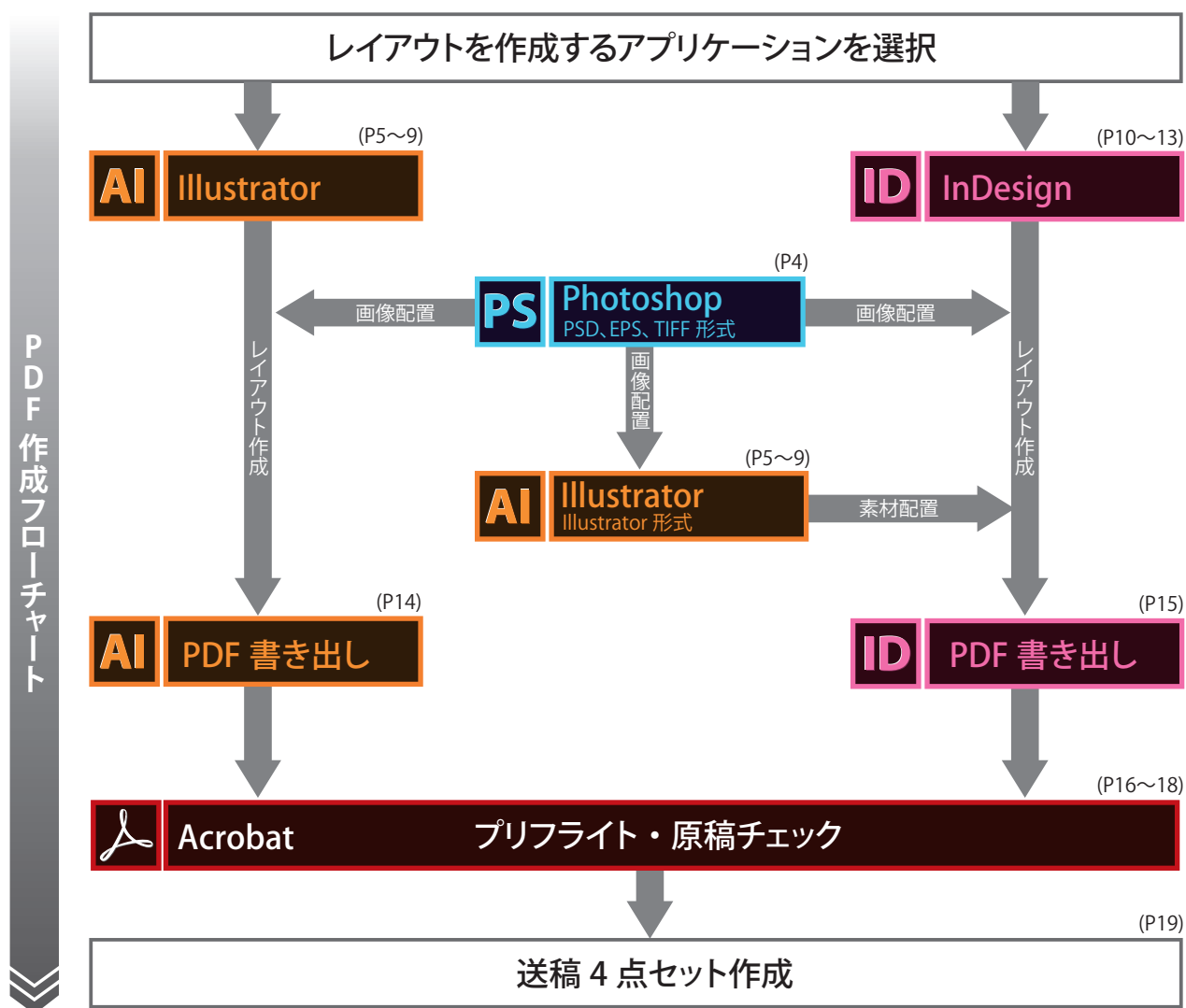
AI Illustrator	14
ID InDesign	15

03 JMPA カラー準拠 PDF プリフライト

 Acrobat	16～18
---	-------

04 送稿セット作成・出力見本について

	19
--	----



01

JMPAカラー準拠PDF制作ルール

本ガイドで使用しているキャプチャーおよび文言は、Mac版 Adobe Creative Cloud製品から引用しています。その他のOS・バージョンにおいて表記が異なる場合がありますが、アプリケーションのヘルプ等を参照し、ガイドに記載の設定・手順と同じになるように制作進行をお願いします。

制作環境

☐ データフォーマット

Mac 版 / Windows 版 Illustrator 及び InDesign から書き出した PDF 形式。雑誌広告デジタル送稿推進協議会が配布する最新の [PDF 設定] を利用する。Acrobat Distiller やその他のアプリケーションから PDF を作成しない。

☐ 使用システム

Illustrator・InDesign のバージョンに合わせ、それぞれ推奨される OS を使用する。

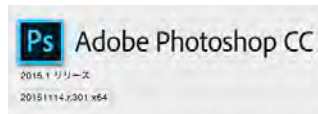
☐ 制作アプリケーション

Photoshop・Illustrator・InDesign・Acrobat Pro に限られ、それぞれ Adobe がサポートしているバージョンのみ使用可能。各アプリケーションは最新のバージョンにアップデートする。

各アプリケーションのバージョン確認方法

Photoshop CC の場合

プルダウンメニュー [Photoshop CC] から [Adobe Photoshop CC について...] を選択



Illustrator CC の場合

プルダウンメニュー [Illustrator CC] から [Illustrator について...] を選択



InDesign CC の場合

プルダウンメニュー [InDesign CC] から [InDesign について...] を選択



Acrobat Pro DC の場合

プルダウンメニュー [Acrobat Pro] から [Adobe Acrobat Pro DC について] を選択



※ Windows の場合はメニューバー [ヘルプ]→[(各アプリケーション) について] で確認する

☐ ウイルスチェック

必ずウイルスチェックをしたメディアを使用する。

☐ データ圧縮

原稿データを圧縮ソフトで圧縮しない。

☐ ファイル名

レイアウトデータ、配置データのファイル名は、半角カタカナと半角記号を使用しない。アンダーバー [_] 及び拡張子のドット [.] は使用可。文字数は、拡張子を含め 31 文字以内とする。

☐ データ量

原稿データのデータ量は 600MB 以下にする。

☐ プリフライト

作成した [JMPA カラー準拠 PDF] は、雑誌広告デジタル送稿推進協議会が配布する最新の [プリフライトプロファイル] を用い、Acrobat Pro でデータのプリフライトを実施し、不備のない事を確認する。

■ カラーモード

CMYK、グレースケール、モノクロ2階調を使用する。RGB、ダブルトーン、カスタムカラー等は使用しない。

■ 画像解像度

多値画像は最終出力解像度が290～450dpi、二値画像は1000～3000dpiにする。
拡大縮小率は多値、二値画像共に80～120%とする。

■ クリッピングパス

クリッピングパスの[平滑度]は、0.2デバイスピクセルに設定する。



画像のトリミングに関して

画像データはPhotoshopで適切な範囲にトリミングし、データを軽くした上でIllustrator、InDesignに配置することを推奨。

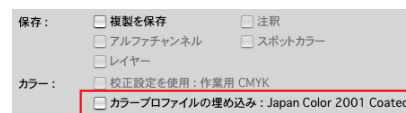
トリミングの目安としては、総面積比の200%程度までとする。

※マスク処理されて隠れている範囲が大きい画像データは、不必要にデータが重くなり、作業効率が低下します。

画像データを修正した際は、レイアウトデータを再保存する。

■ ICCプロファイル

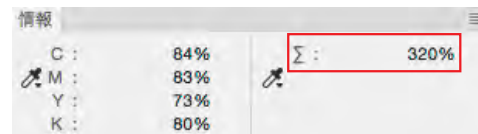
ICCプロファイルの埋め込みはしない。



[カラープロファイルの埋め込み]のチェックは外す

■ TAC値(総網点量)

TAC値(総網点量)は320%以下にする。



■ 画像の保存形式

- ・ 画像データのフォーマットは、PSD (Photoshopネイティブ形式)、EPS、TIFFを使用する。 ※PSD形式推奨
- ・ レイヤーは統合する。



Photoshop上で文字を扱う場合は、文字が350dpiでラスター化され、がたつきが生じる恐れがありますのでご注意ください。

EPS、TIFF形式は以下のルールに従い、適切に使用する。

EPS形式

保存時の[EPSオプション]で、

- ・ [エンコーディング]は、[ASCII85]を選択する。^①
- ・ [ハーフトーンスクリーンを含める]のチェックを外す。
- ・ [トランスファー関数を含める]のチェックを外す。
- ・ [ポストスクリプトカラーマネジメント]のチェックを外す。
- ・ [画像補間方式]のチェックを外す。^②



TIFF形式

保存時の[TIFFオプション]で、

- ・ [画像圧縮]は[なし]または[LZW]、[ZIP]を選択する。^③

※JPEG圧縮は不可。



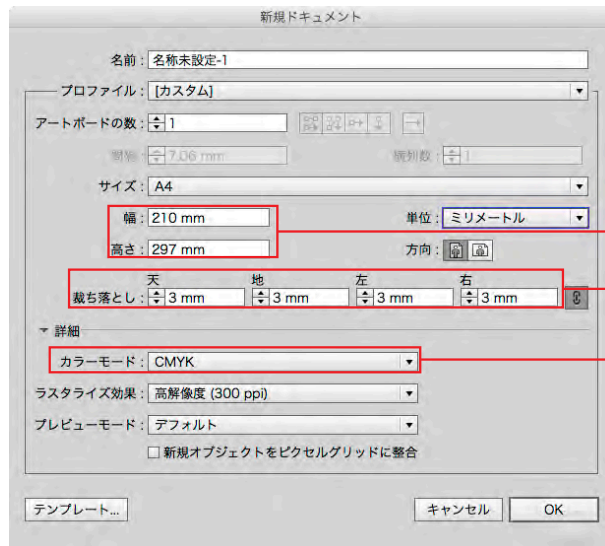
■ 原稿サイズ・裁ち落とし・塗り足し・カラーモード

新規ドキュメント作成時またはドキュメント設定画面にて仕上がりサイズをページサイズとして設定する。①

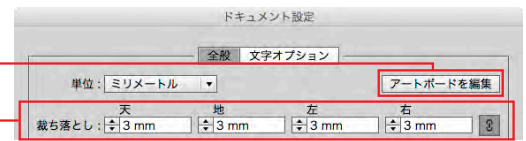
裁ち落としを天地左右3mm(雑誌により例外あり)に設定する。②

カラーモードをCMYKに設定する。③

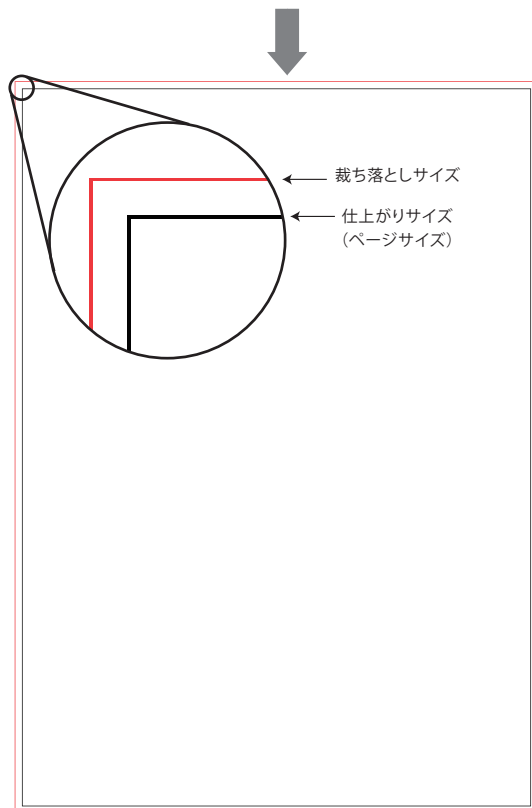
裁ち落とし部分には塗り足しを正しく設定する。(雑誌により例外あり) ④



新規ドキュメント作成画面



ドキュメント設定画面



レイアウト
作成



■ トンボ

Illustrator上で発生させるトンボ(トリムマーク)は使用不可。

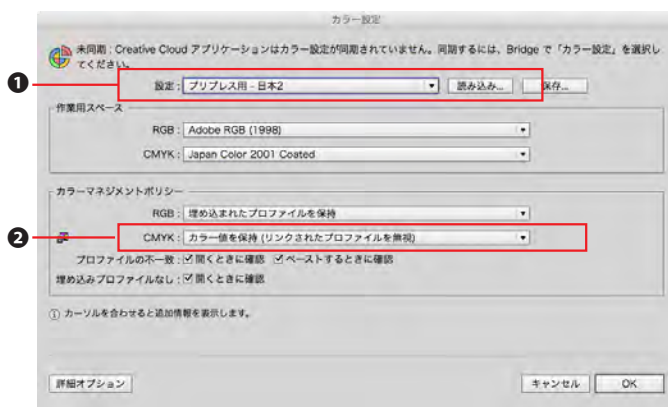
トンボはPDF保存時に[PDF設定]に規定されている設定を元に自動発生するため、原稿内に手動で作成する必要がない。



■ カラー設定

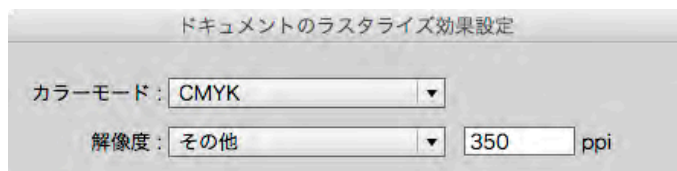
[編集]メニューの[カラー設定]の[設定]で[Adobe® Illustrator® 5.5をエミュレート]は使用しない。①

[カラーマネジメントポリシー]のCMYKは[カラー値を保持(リンクされたプロファイルを無視)]を選択する。②



■ 効果メニュー

[効果]メニューの[ドキュメントのラスタライズ効果設定]の[カラーモード]を[CMYK]に、[解像度]を[その他 350ppi]に設定する。



■ レイヤー・オブジェクト設定

テンプレートレイヤー、非表示レイヤー、非印刷レイヤー、ロックレイヤー、非表示オブジェクト、ロックオブジェクトの設定はしない。

■ 使用色

CMYK、グレースケールのみ使用。RGB、スポットカラー（カスタムカラー）は使用不可。
原稿データ内に不要な版の色指定はしない。

■ パターンの分割

パターンを使用している場合は、分割・拡張を行う。



パターンオブジェクトの有無は[ドキュメント情報]パネルで確認できます。[書類情報]パレットで、[選択内容のみ]のチェックを外して、[パターンオブジェクト]を選択すると、原稿内で使用しているパターンオブジェクトが表示されます。

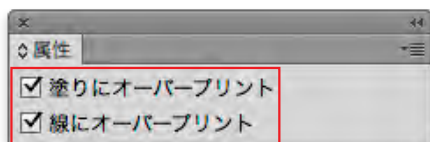
パターン分割後は、表示が「なし」になることを確認してください。

■ フォント

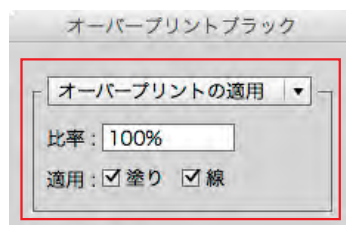
フォントはエンベッドせず、全てアウトライン化する。フォントデータを含む孤立点は、原稿データ内に入れない。

■ オーバープリント

墨ベタ（K100%）のオブジェクトは全てオーバープリント設定を行う。色網のオブジェクト・画像にオーバープリント設定は不可。



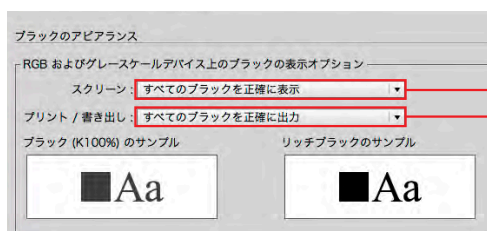
[ウインドウ]から[属性]を選択し、K100%のオブジェクトに対して、正しくオーバープリントの設定を行ってください。



[編集]から[カラーを編集]→[オーバープリントブラック]を選択することにより原稿内の墨ベタ（K100%）オブジェクトに対して一括でオーバープリントを設定できます。



Illustrator環境設定[ブラックのアピアランス]を以下の設定にしてください。意図しない仕上がり結果になる可能性があります。

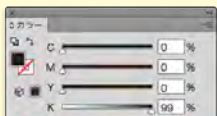


画面表示を正しくする為に[すべてのブラックを正確に表示]を選択してください。
出力結果を正しくする為に[すべてのブラックを正確に出力]を選択してください。

< 墨ベタの抜き・色網をノセる場合の処理方法 >

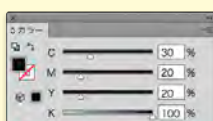
< 墨ベタを抜く場合1 >

スミベタを抜きにする場合、塗り・線の設定を99%にする方法があります。



< 墨ベタを抜く場合2 >

スミ版にCMY版の全ての色を加えてリッチブラックにすると、画像に対してノセ処理を行っても、下地が透ける事を防げます。ただし、CMY版の全ての版に網の設定がないと、RIP時にスミ版がノセになる場合があるので、注意が必要です。



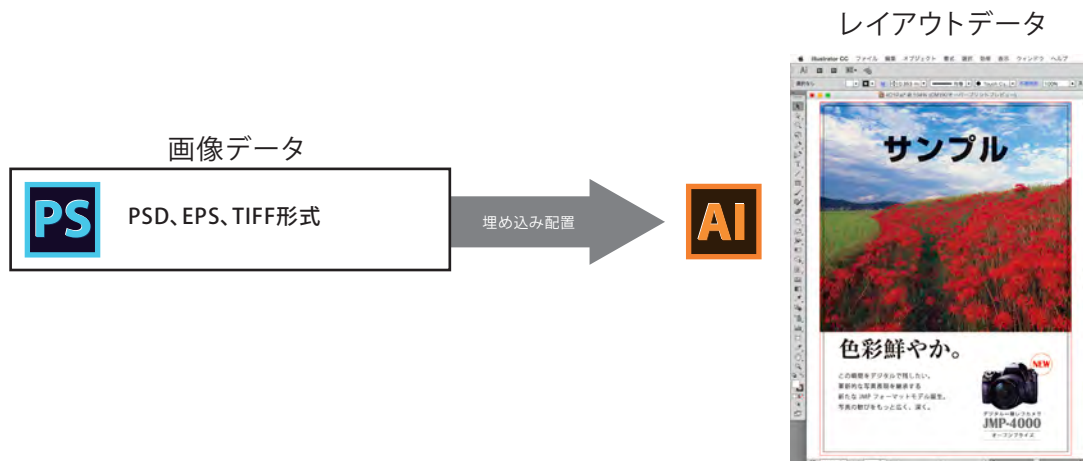
< 色網をノセる場合 >

色網のノセは[透明効果]の[乗算]を用いることで似た効果を得ることができます。



■ 配置素材

画像の配置は[ファイル]メニューから[配置]を選択して行い、他のアプリケーション上でコピーしたオブジェクトはIllustratorファイル上にペーストしない。配置できる形式はPhotoshopで作成したPSD、EPS、TIFF形式のみ。画像は全て埋め込む。

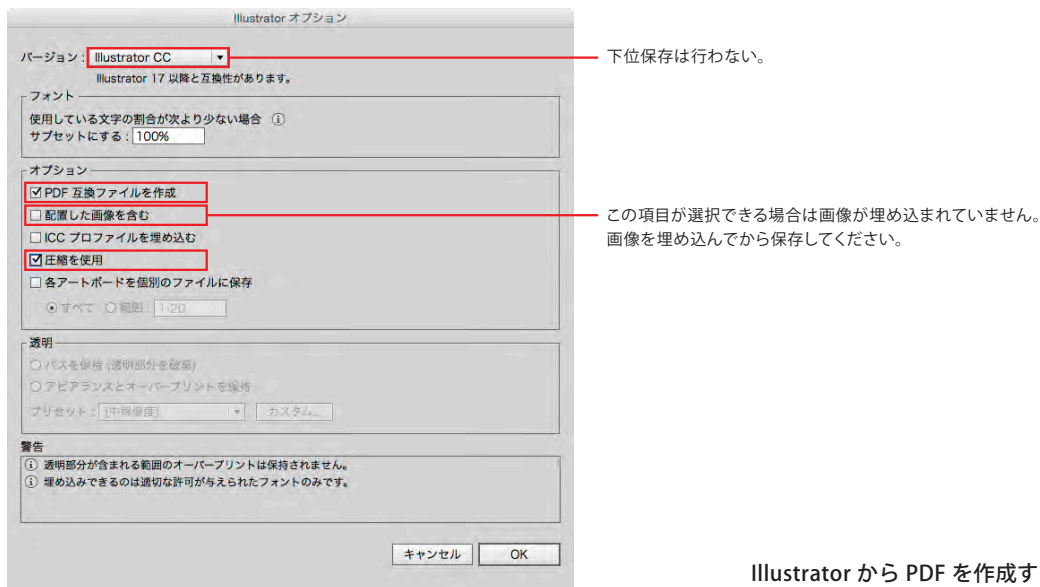


■ TAC値(総網点量)

全てのオブジェクト・画像のTAC値(総網点量)を320%以下にする。P18を参考に確認をしてください。

■ IllustratorファイルをInDesignに使用する場合の保存方法

InDesignに使用するIllustratorのファイル形式は以下の設定のIllustrator形式のみ使用可能。下位保存されたデータは使用不可。



Illustrator から PDF を作成する場合は P14 へ
InDesign から PDF を作成する場合は P15 へ

<データ制作に関する注意事項>



- ・ 8.5pt未満のヌキ文字を使用すると、本機印刷時にツブレなど発生する場合があります。
- ・ 0.3pt未満の罫を使用すると、本機印刷時にカスレなど発生する場合があります。
- ・ 10%未満の平網を使用すると、本機印刷時に再現されない場合があります。

■ 特殊ページ制作方法

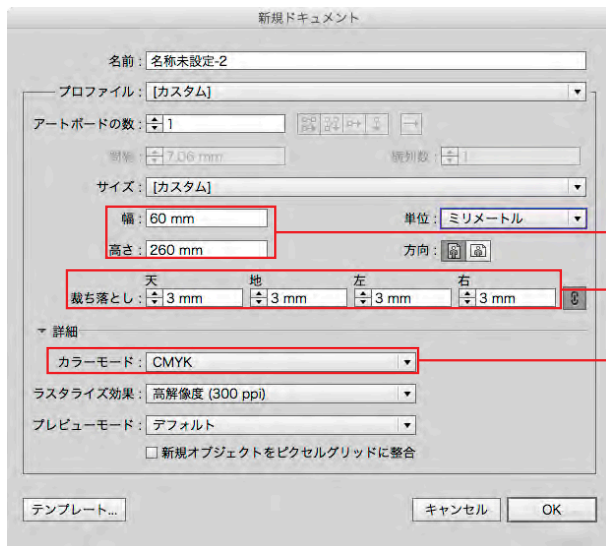
小枠原稿

新規ドキュメント作成時またはドキュメント設定画面にて仕上がりサイズをページサイズとして設定する。^①

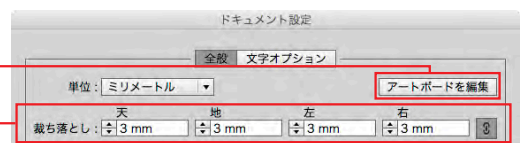
裁ち落としを天地左右3mm(雑誌により例外あり)に設定する。^②

カラーモードをCMYKに設定する。^③

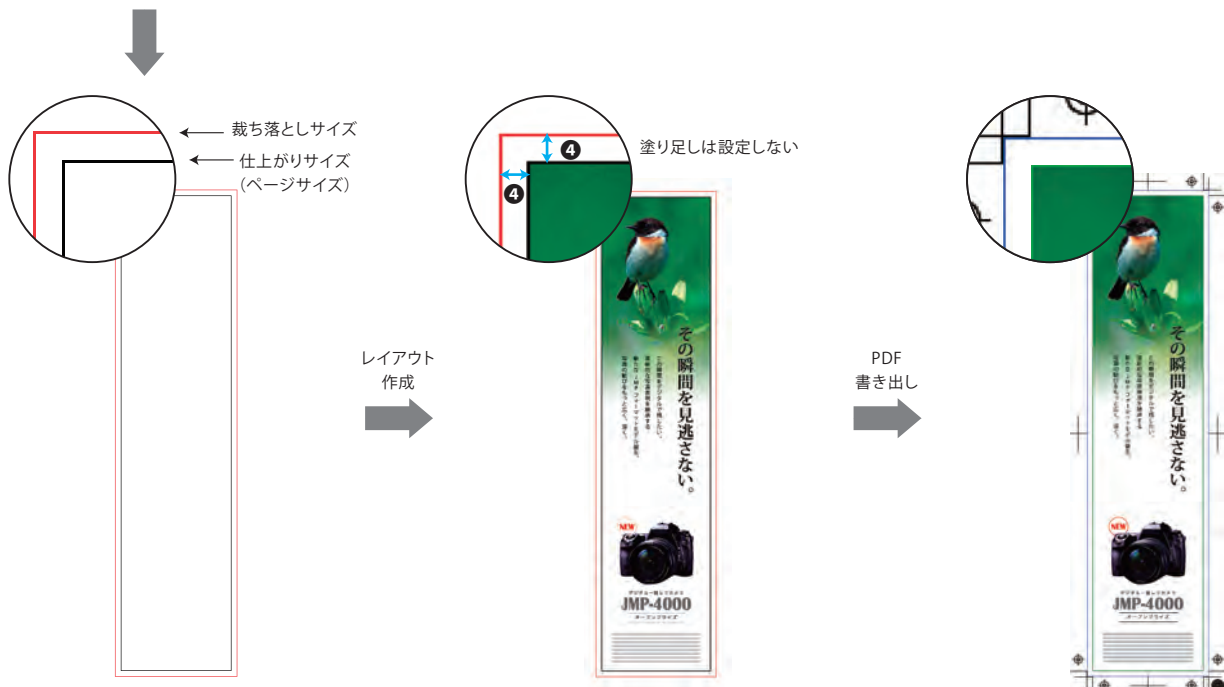
裁ち落とし部分には塗り足しを入れない。(雑誌により例外あり)^④



新規ドキュメント作成画面



ドキュメント設定画面



■ 原稿サイズ・裁ち落とし・塗り足し

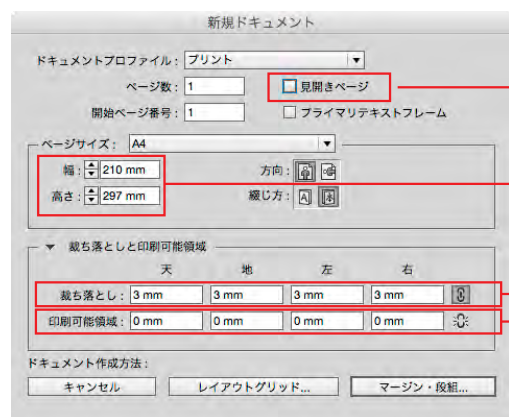
見開きページにはチェックを入れない。①

新規ドキュメント作成時またはドキュメント設定画面にて仕上がりサイズをページサイズとして設定する。②

裁ち落としを天地左右3mm(雑誌により例外あり)に設定する。③

印刷可能領域は天地左右0mmに設定する。④

裁ち落とし部分には塗り足しを正しく設定する。(雑誌により例外あり)⑤

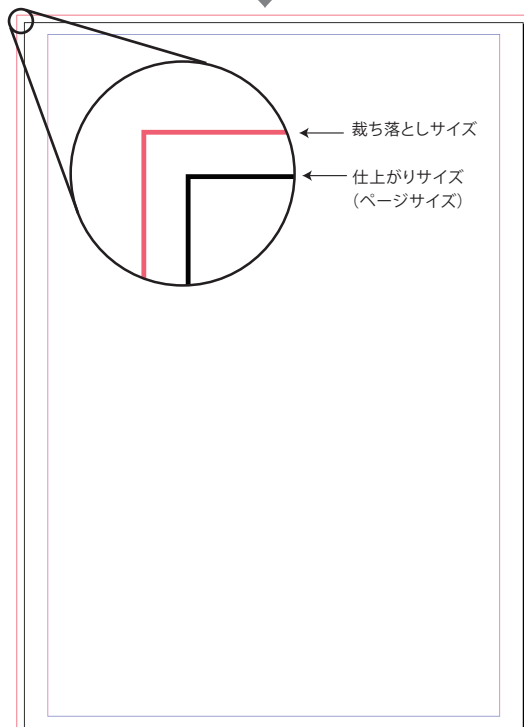


新規ドキュメント作成画面



ドキュメント設定画面

レイアウトグリッド、
マージン・段組は任意の値を入力する

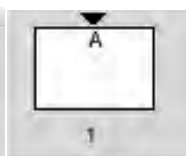
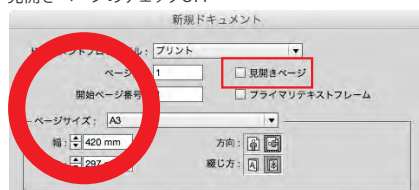


レイアウト
作成

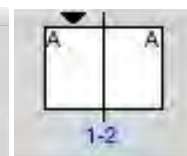
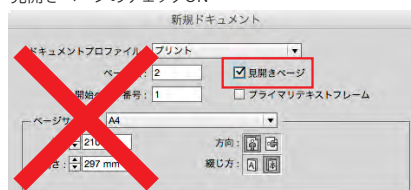


！ 単ページ原稿(1P)・見開き原稿(2P)に関わらず、見開きページのチェックは入れずにデータの作成を行う。

見開きページのチェックOFF



見開きページのチェックON

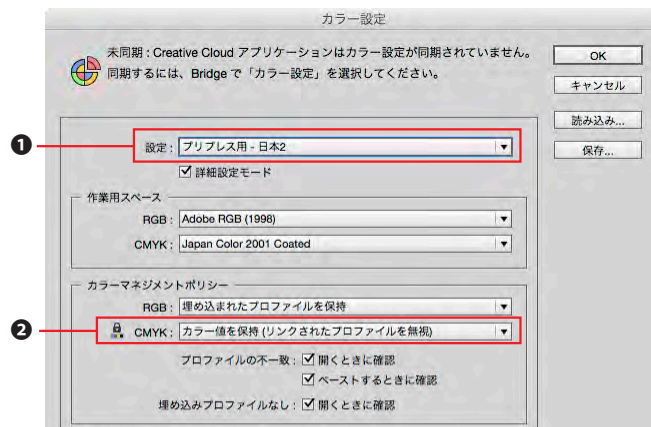


■ トンボ

レイアウトデータ内にオブジェクトトンボは使用不可。トンボはPDF保存時に[PDF設定]に規定されている設定を元に自動発生するため、原稿内に手動で作成する必要がない。

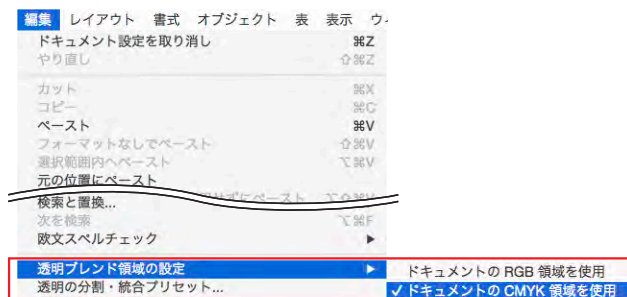
■ カラー設定

- [編集]メニューの[カラー設定]で[Adobe® InDesign® 2.0 CMSエミュレートオフ]は使用しない。①
[カラーマネジメントポリシー]のCMYKは[カラー値を保持(リンクされたプロファイルを無視)]を選択する。②



■ 透明ブレンド領域の設定

[編集]メニューの[透明ブレンド領域の設定]を[ドキュメントのCMYK領域を使用]に設定する。



■ レイヤー・オブジェクト設定

非表示レイヤー、非印刷レイヤー、ロックレイヤー、ロックオブジェクトの設定はしない。

■ 使用色

CMYKのみ使用。RGB、スポットカラー(カスタムカラー)は使用不可。
原稿データ内に不要な版の色指定はしない。

■ フォント

フォントはエンベッドせず、全てのフォントを[書式]メニューの[アウトラインを作成]を行いアウトライン化する。
フォントデータを含む孤立点は、原稿データ内に入れない。



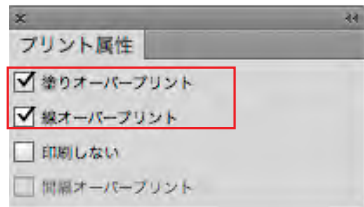
アウトラインを取る方法によって、文字間にずれが発生する場合があります。

■ オーバープリント

墨ベタ (K100%) のオブジェクトは全てオーバープリント設定を行う。色網のオブジェクトにオーバープリント設定は不可。

※InDesign上のオブジェクトを[黒]スウォッチで作成するとPDF書き出し時に自動でオーバープリント処理されます。

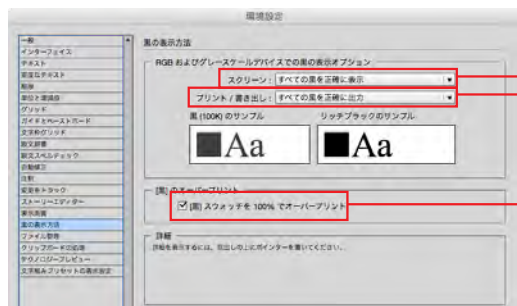
墨ベタの抜き・色網をノセる場合はP7を参照してください。



[ウインドウ]から[プリント属性]を選択し、K100%のオブジェクトに対して、正しくオーバープリントの設定を行ってください。



InDesign環境設定[黒の表示方法]を以下の設定にしてください。意図しない仕上がり結果になる可能性があります。



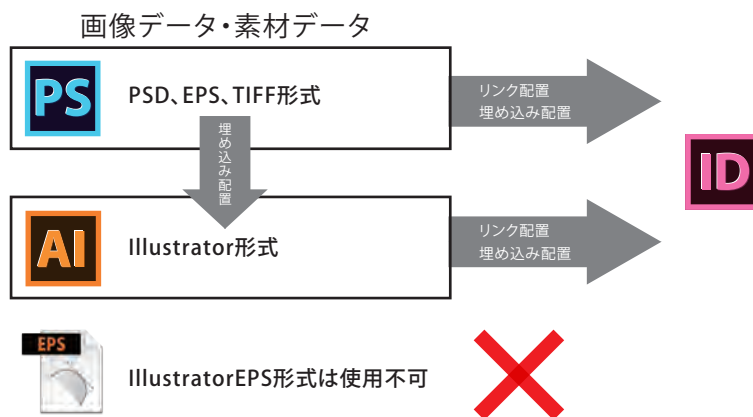
画面表示を正しくする為に[すべての黒を正確に表示]を選択してください。
出力結果を正しくする為に[すべての黒を正確に出力]を選択してください。

[黒]スウォッチを100%でオーバープリントを選択してください。
[黒]スウォッチで作成したオブジェクトは自動でオーバープリントが適用されます。

■ 配置素材

画像・素材の配置は[ファイル]メニューから[配置]を選択して行い、他のアプリケーション上でコピーしたオブジェクトはInDesignファイル上にペーストしない。配置できる形式は、Photoshopで作成したPSD、EPS、TIFF形式及び、Illustratorで作成したIllustrator形式のファイルのみ。IllustratorEPSや下位保存されたデータは使用不可。

InDesignに貼り込んだ画像データ・素材データはリンク配置、埋め込み配置どちらでも可。



レイアウトデータ



■ TAC値(総網点量)

全てのオブジェクト・画像のTAC値(総網点量)を320%以下にする。P18を参考に確認をしてください。

PDF作成方法はP15へ

<データ制作に関する注意事項>



- ・ 8.5pt未満のヌキ文字を使用すると、本機印刷時にツブレなど発生する場合があります。
- ・ 0.3pt未満の罫を使用すると、本機印刷時にカスレなど発生する場合があります。
- ・ 10%未満の平網を使用すると、本機印刷時に再現されない場合があります。

■ 特殊ページ制作方法

小枠原稿

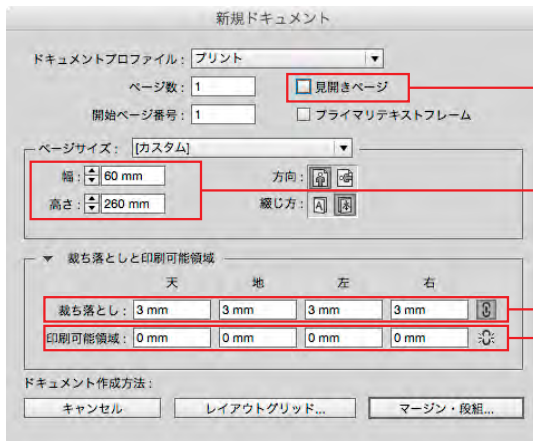
見開きページにはチェックを入れない。^①

新規ドキュメント作成時またはドキュメント設定画面にて仕上がりサイズをページサイズとして設定する。^②

裁ち落としを天地左右3mm(雑誌により例外あり)に設定する。^③

印刷可能領域は天地左右0mmに設定する。^④

裁ち落とし部分には塗り足しを設定しない。(雑誌により例外あり)^⑤



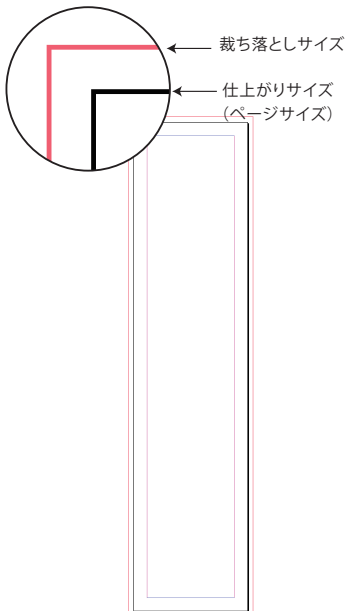
新規ドキュメント作成画面



ドキュメント設定画面



レイアウトグリッド、
マージン・段組は任意の値を入力する



レイアウト
作成



PDF
書き出し



02

JMPAカラー準拠PDF作成方法

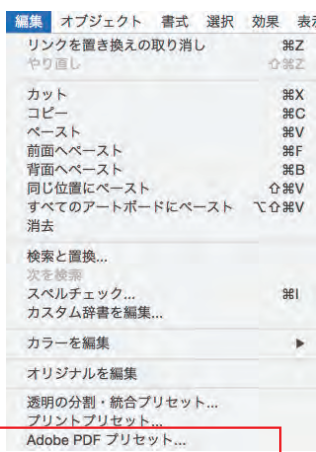
JMPAカラー準拠PDF作成方法／Illustrator

AI

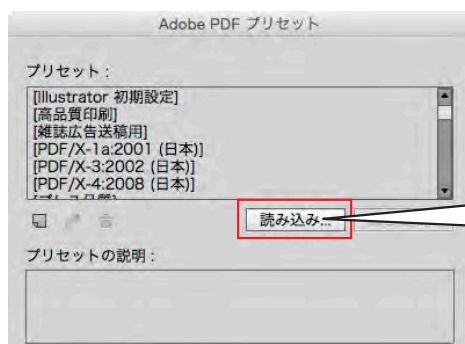
■ AdobePDFプリセットを読み込み

[雑誌広告送稿用_200909] 及び Adobeソフトウェア に同梱されている [雑誌広告送稿用] は使用できません。
雑誌デジ送ナビ <http://www.3djma.jp/> より最新の「PDF 設定」をダウンロードしてご利用ください。

※Illustrator・InDesignのどちらかで設定を行えば同一のプリセットを共通で使用できます。



1. [編集]メニューから
[Adobe PDFプリセット]を選択します。



2. [読み込み] ボタンをクリックし、ダウンロードした規定の
[PDF 設定] を読み込んでください。

<http://www.3djma.jp/>

雑誌デジ送ナビ

最新の
「PDF書き出し設定 (joboptions)」
をダウンロード



○○○○○○.joboptions

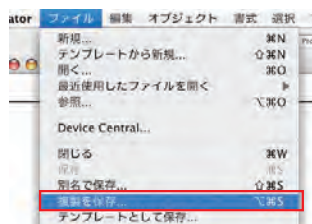
joboptionはダブルクリックしても
取り込まれません。[読み込み] ボタンから
[PDF 設定] を読み込んでください。

■ PDF書き出し

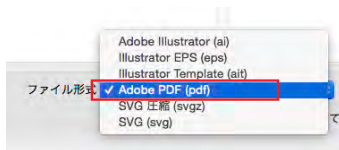
規定の「PDF 設定」を利用して、Illustrator から最終送稿PDF データを保存する。

最終送稿PDF データのフォーマットはPDF 形式、作業中のデータ保存はIllustrator ネイティブのAi 形式を利用する。

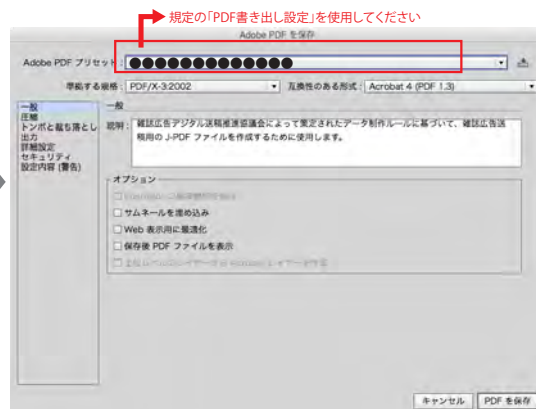
Acrobat Distillerやその他のアプリケーションからは送稿用PDFデータを作成しないでください。



1. [ファイル]メニューから
[複製を保存]を選択します。



2. [ファイル形式]で[Adobe PDF(pdf)]を選択し、
ファイル名と保存場所を指定して
[保存]をクリックしてください。



3. [Adobe PDFを保存]パネルで規定のPDF設定を選択して[PDFを保存]を
クリックします。



■ AdobePDFプリセットを読み込み

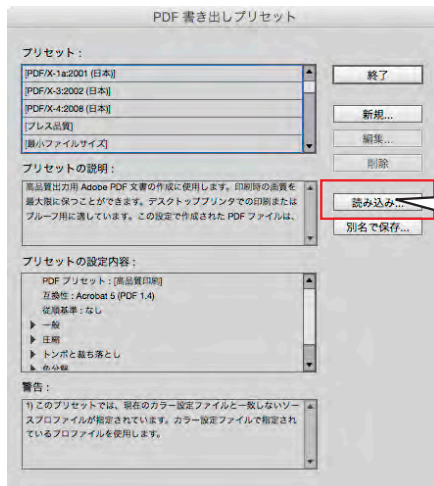
[雑誌広告送稿用_200909] 及び Adobeソフトウェア に同梱されている [雑誌広告送稿用] は使用できません。

雑誌デジ送ナビ <http://www.3djma.jp/> より最新の「PDF 設定」をダウンロードしてご利用ください。

※Illustrator・InDesignのどちらかで設定を行えば同一のプリセットを共通で使用できます。



1. [編集]メニューから [PDF書き出しプリセット]の[定義]を選択します。



2. [読み込み] ボタンをクリックし、ダウンロードした規定の [PDF 設定] を読み込んでください。

<http://www.3djma.jp>

雑誌デジ送ナビ



最新の「PDF書き出し設定 (joboptions)」をダウンロード



○○○○○○.joboptions

joboptionはダブルクリックしても取り込まれません。[読み込み] ボタンから [PDF 設定] を読み込んでください。

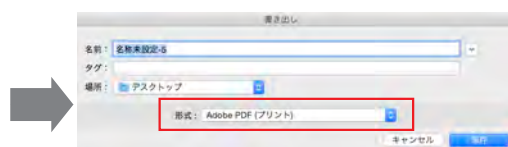
■ PDF書き出し

規定の「PDF 設定」を利用して、InDesign から最終送稿PDF データを保存する。

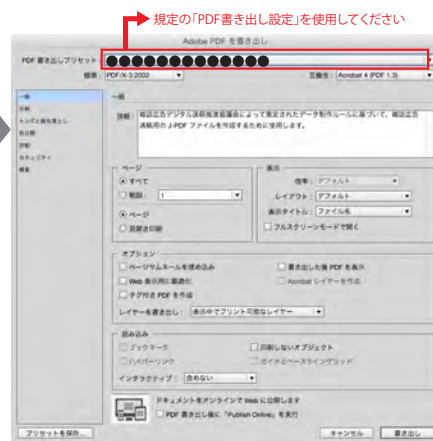
Acrobat Distillerやその他のアプリケーションからは送稿用PDFデータを作成しないでください。



1. [ファイル]メニューから [書き出し]を選択します。



2. [形式]で[Adobe PDF(プリント)]を選択し、ファイル名と保存場所を指定して[保存]をクリックしてください。



3. [Adobe PDFを書き出し]パネルで規定のPDF設定を選択して[書き出し]をクリックします。



03

JMPAカラー準拠PDFプリフライト

JMPAカラー準拠PDFプリフライト／Acrobat



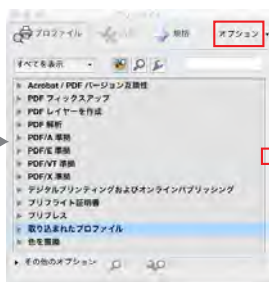
■プリフライトの実施

[雑誌広告送稿用_200909]・[雑誌広告送稿用_201101C]・[雑誌広告送稿用_201406C]及びAdobeソフトウェアに同梱されている[雑誌広告送稿用]は使用できません。規定のJMPAカラー準拠PDF専用プリフライトプロファイルを用いて、最終送稿PDFデータの検査を行う。

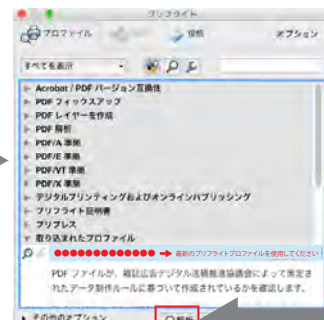
プリフライトの実行



1. [編集]メニューから[プリフライト]を選択します。



2. [オプション]メニューから[プリフライトプロファイル]を取り込み、規定のプリフライトプロファイルを取り込みます。



3. [プリフライト]パネル内に取り込んだ規定のプロファイルを選択して[解析]をクリックしてプリフライト結果を確認する。



PDF作成後は再度プリフライトを実施する



送稿可

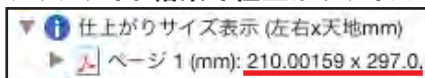


[情報]項目を確認後送稿可
問題があればレイアウトデータに戻り修正



送稿不可
NG箇所を修正し、PDFを再作成
TAC値が320%を超えている場合の確認方法→P18

プリフライト結果で仕上がりサイズの確認



プリフライト結果上に仕上がりサイズ(左右x天地mm)は必ず表示される仕様になっていますが、**目的の媒体仕様**に合致しているかの検査は行いません。左の▶をクリックして表示された仕上がりサイズが意図した制作サイズであることを確認してください。
※ Acrobatの仕様により小数点以下のブレが発生する場合がありますが問題ありません。(許容誤差±0.1mm以内)

目視確認:オーバープリント状況の確認、TAC値(総網点量)が320%を超えている箇所の確認→P17・18

目視確認:最終PDFから出力した出力見本で確認

規定のプリフライトチェックでは、[セーフティ(追い込みサイズ)] [塗り足しの有無]が**目的の媒体仕様**に合致しているかの検査は行いません。必ず最終PDFから出力した出力見本で目視確認してください。

プリフライトレポートの作成・出力、送稿セット作成→P18,19

❗ 「線の太さが0.3pt未満」「ヘアラインを使用している可能性があります」の情報表示について
プリフライトでは線の太さが0.3pt未満のオブジェクトを情報表示する設定になっていますが、線の設定を行っていないオブジェクトまで情報として拾ってしまう事があります。これはAcrobatの仕様によるためですが、必ず一つずつオブジェクトの確認を行ってください。

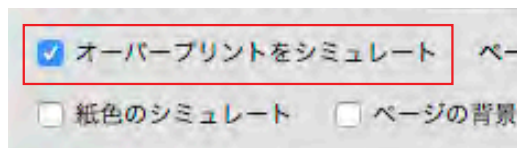
「4Cまたは特色以外のカラーを使用」のエラー表示について
パターンのエラー警告と共に表示される場合があります。パターンオブジェクトに分割・拡張処理を行う事でエラーを回避できます。



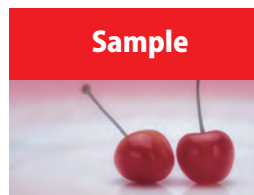
[オーバープリントプレビュー]や[出力プレビュー]の[色分解プレビュー]や[カラー警告プレビュー]を活用して、意図したノセヌキ結果となっていることを確認する。

■オーバープリントの確認(1)

オーバープリント再現をシミュレーションする方法



- 1.[ツール]メニューの[印刷工程]を開き[出力プレビュー]をクリックし[オーバープリントをシミュレート]を選択します。



オーバープリントプレビューOFF



オーバープリントプレビューON

- 2.アプリケーションで設定したオーバープリントが反映されて表示されます。



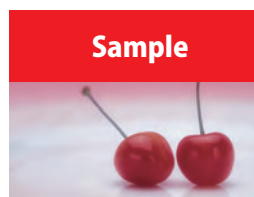
上記例ではNG項目「色網のオーバープリント」が確認できました。P7の「オーバープリント」解説項目を参考に修正をお願いします。

■オーバープリントの確認(2)

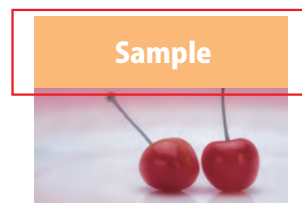
オーバープリント箇所の確認



- 1.[ツール]メニューの[印刷工程]を開き[出力プレビュー]をクリックし[プレビュー]の[カラー警告]を選択し、[オーバープリントを表示]を選択します。



オーバープリントを表示OFF



オーバープリントを表示ON

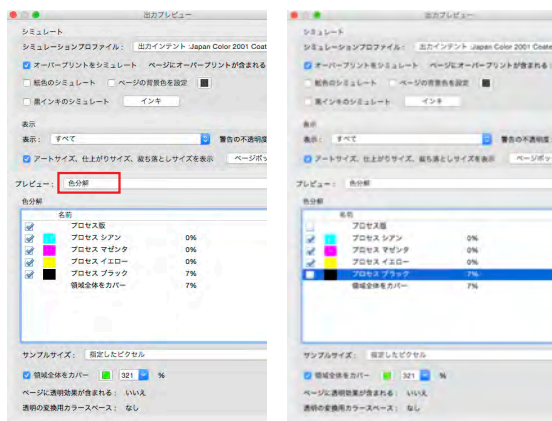
2. オーバープリントの部分が警告色で表示されます。



上記例ではNG項目「色網のオーバープリント」が確認できました。P7の「オーバープリント」解説項目を参考に修正をお願いします。

■オーバープリントの確認(3)

分版での確認



CMYK全版を表示



ブラック版を非表示

1. [出力プレビュー]パネルの[プレビュー]の[色分解]を選択します。
2. 各版を個別にプレビューして意図したノセヌキの結果となっているかを確認してください。

3. ブラック版の表示を解除してノセの設定を確認した状態。上記例では「ブラック100%のオーバープリント」が適切に設定されていることが確認できました。

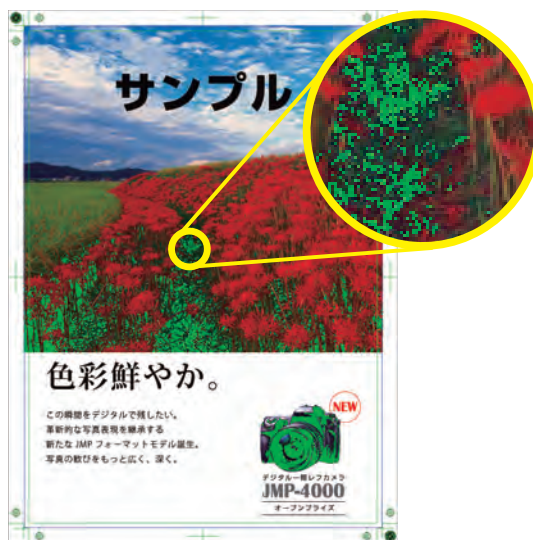
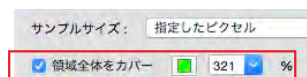


■TAC値(総網点量)が320%を超えている箇所の確認方法

プリフライト結果で「このページのTAC値が320%を超えている」とエラー表示された場合に関わらず、すべての原稿に対して[ツール]メニューの[印刷工程]にある[出力プレビュー]を用いてTAC値の検証を行う。
レジストレーショントンボ以外の320%を超えている部分を確認し、画像データ・レイアウトデータの修正を行ってください。
※シミュレーションプロファイルとインテントされたプロファイルを同じにしてください。設定が異なる場合、表示結果が著しく異なります。
注意してください。

1. [ツール]メニューの[印刷工程]を開き[出力プレビュー]をクリックし[出力プレビュー]パネルを表示させます。

2. [出力プレビュー]パネルの[領域全体をカバー]をクリックして、321%を選択すると、TAC値320%を超える部分が緑色で警告表示されます。



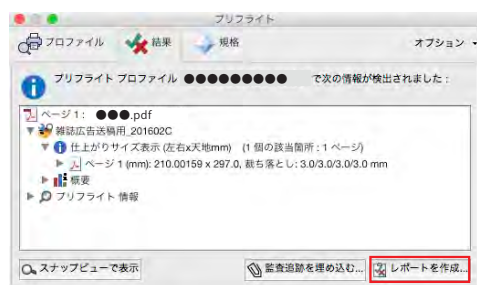
TAC値320%を超える部分が
警告色(緑色)で表示されている状態

色分解		
名前		
☒ プロセス版		
☒ プロセス シアン		90%
☒ プロセス マゼンタ		90%
☒ プロセス イエロー		90%
☒ プロセス ブラック		90%
☒ 領域全体をカバー		360%

警告された部分にカーソルを移動すると[色分解]のウィンドウにインキ量が表示されます。
トンボ以外のオブジェクト・画像が320%を超える場合には、原稿の修正を行ってください。

■プリフライトレポートの作成

プリフライト実施後、全ての確認作業(仕上がりサイズ、オーバープリント状況、TAC値の目視確認、セーフティ・塗り足し有無)で問題がないことを確認した上で、プリフライトレポートを作成・プリントアウトして送稿メディアに添付する。



1. 全ての確認作業で問題がないことを確認した後、[プリフライト]パネルの[レポートを作成]をクリックします。



2. [保存]パネルで[PDFレポート]の[概要]を選択して保存してください。[詳細]にチェックを入れて保存すると不要な情報を含んでしまうため不可。
ファイル名の最後に[_report]とつけ、最終送稿PDFデータと区別が付くようにしてください。



04 送稿セット作成・出力見本について

■送稿(入稿)4点セット

□メディア

1 原稿1メディアとし、次のメディアを使用する。

CD-R:700MB 以下(CD-RW は不可) / DVD-R:4.7GB 以下(DVD-RW は不可)

送稿メディア(CD-R・DVD-R)には、PDF 原稿とプリフライトを実施したプリフライトレポート(P18参照)だけを収め、レイアウトに埋め込んだ画像データや原稿の素材データは同梱しない。



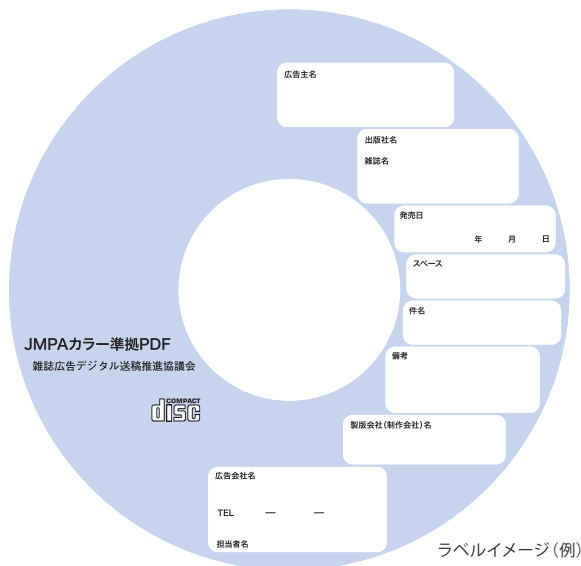
送稿PDFとレポートPDFのみ同梱されている



不要なファイルが同梱されている

メディアに貼るラベルの体裁や仕様は協議会として規定しません。

※ラベル面には「JMPA カラー準拠 PDF」と明記し、広告主名、出版社名、雑誌名、発売日、スペース、広告会社名、件名、製版会社(制作会社) 名を必ず記入してください。

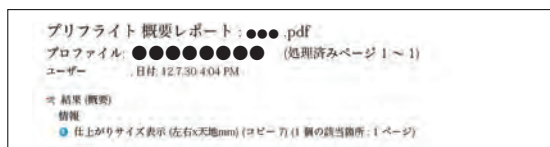


□仕様書

カラー原稿は「JMPA カラー準拠PDF 仕様書」、モノクロ原稿は「モノクロ(グレースケール)PDF仕様書」を使用する。仕様書に記載事項を正確に記入し、プリントアウトして添付する。※仕様書のファイルは、送稿メディア内に含めない。

□プリフライトレポートの添付

最終送稿PDF データに問題がないことを確認した上で、プリフライトレポートをプリントアウトして送稿メディアに添付する。プリフライトレポートPDF データも送稿メディア内に同梱する。



□出力見本

送稿メディアの最終送稿PDFデータをPostScript対応プリンターを使用した原寸出力物(拡大もしくは縮小は不可)を添付する。出力はPDFの内容に応じてカラー出力・モノクロ出力を行い、出力見本であることを出力物に明記する。

<送稿4点セットに関する注意事項>



送稿4点セットに色見本の添付は不可。JMPAカラー運用では、印刷会社のDDCP(色管理された出力機)を基準として印刷を行っているため、添付は不可となっています。
(掲載色を事前に確認する場合は、制作段階でJMPA カラーに準拠したDDCPを活用し色確認をおこなってください。)

[雑誌広告デジタル送稿]

「JMPA カラー準拠 PDF」 デジタル制作ガイド

2011 年 1 月 14 日 改定 2025 年 9 月 1 日 改訂

雑誌広告 デジタル送稿推進協議会

注意事項

- 本制作ガイドの一部または全部を雑誌広告デジタル送稿推進協議会の事前承諾なしに改編することを禁じます。
 - 本制作ガイドに記載された内容は最終送稿PDFデータまでの運用情報の提供を目的としておりますが、予告なしに変更されることがあります。
 - 国内で発行される雑誌における、雑誌広告専用の送稿データは、カラー原稿の場合はCMYKデータのみで、モノクロ原稿の場合はグレースケールデータのみです (RGBデータは一切不可)。従って、送稿データのガイドとして、画像データに関する記述・表示はカラー/モノクロそれぞれCMYK/グレースケールを基準として解説しています。
 - 本制作ガイドにはPhotoshop編がありますが、これはあくまでも画像処理が完了し、最終送稿PDFデータを保存する場合の解説であることをご了承ください。
 - 雑誌広告のデジタル送稿推進を目的に作成された本制作ガイドは、雑誌広告専用の仕様および内容となっています。
他の媒体でのご使用は出来ませんので充分ご注意ください。
Apple、Mac、MacOSはApple Inc.の商標で、米国および各国で登録されています。
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe Illustrator、InDesign、Photoshop、AcrobatおよびPostScriptはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。
その他すべてのブランド名および製品名は個々の所有者の登録商標もしくは商標です。
-